



取扱説明書

MT-07

モーターサイクル

MT-07 (MTN690)

⚠ご使用の前には必ず取扱説明書を
よく読んでください。

安全運転のために

各部の名称

車両の特徴

各部の取り扱いと操作

日常点検

運転操作

点検整備

お車の手入れ

製品仕様

ユーザー情報

索引

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

BTK-28199-J0●

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明しております。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示しております。
	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示しております。
	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しております。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示しております。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆするときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1	荷掛けフック	4-21	ブレーキランプスイッチの点検	7-9
あなた自身と同乗者のために	1-1	ブレーキレバーの握り調整	4-22	ブレーキパッドの点検	7-10
歩行者と他の車のために	1-5	DC コネクター	4-22	ブレーキ液量の点検	7-10
環境・住民の方との調和のために	1-6	サイドスタンド	4-22	ドライブチェーン	7-11
各部の名称	2-1	イグニッションサーキット カットオフシステム	4-23	ドライブチェーンの給油	7-12
左側面	2-1			バックミラー	7-13
右側面	2-2			車体各部の給油脂状態の点検	7-13
運転装置と計器類	2-3			バッテリー	7-14
車両の特徴	3-1			ヒューズ交換	7-15
クイックシフター (装備している場合)	3-1			灯火装置および方向指示灯の 点検	7-17
CCU (コミュニケーション コントロールユニット)	3-1			運行において異常が認められた 箇所の点検	7-18
各部の取り扱いと操作	4-1	運転操作	6-1	お車の手入れ	8-1
キーの取り扱い	4-1	ならし運転	6-1	洗車	8-1
イモビライザーシステム	4-2	エンジン始動	6-1	キャストホイールの取り扱い	8-2
メインスイッチ	4-2	ギヤチェンジのしかた	6-2	保管のしかた	8-3
ハンドルスイッチ	4-3	ブレーキ	6-3	アフターケア用品について	8-3
警告灯と表示灯	4-5	駐車	6-3		
メインディスプレイ画面	4-6	点検整備	7-1	製品仕様	9-1
メニュー系統	4-12	点検整備の実施	7-1	ユーザー情報	10-1
ABS	4-15	サービスツール	7-2	二輪車を廃棄する場合は?	10-1
フューエルタンクキャップ	4-16	エンジンオイル	7-2	サービススマニュアル (別売) の 紹介	10-2
燃料	4-17	エンジンのかかり具合、異音の 点検	7-3	車両情報	10-2
シート	4-18	低速、加速の状態の点検	7-4		
ヘルメットホルダー	4-19	冷却水	7-4		
書類入れ	4-19	エアクリーナーエレメントの交換	7-6		
リヤクッションの調整	4-20	タイヤ	7-6		
		クラッチ	7-8		
		ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検	7-9		
				索引	11-1

JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

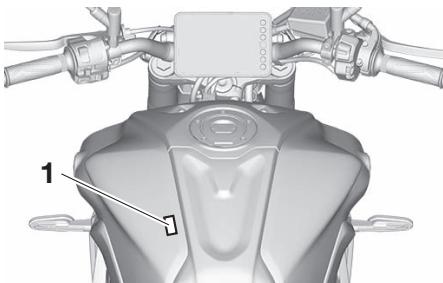
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

JAU2737B

▲ 警告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドライトを垦削はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って施行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしつくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - プロテクターを備えた保護性の高い服

安全運転のために

1

で明るく目立つ色のもの

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



の体に密着しない服



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因になりますので、着用しないでください。
- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなど

- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

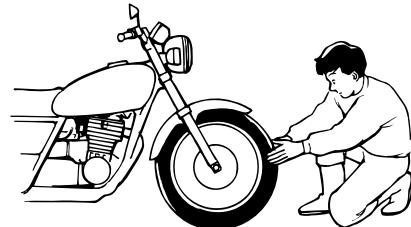
JWA11601

！警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそ

れがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

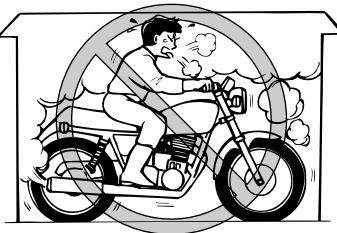


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

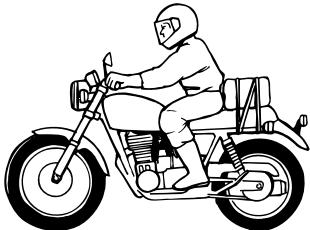
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけ

ると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する



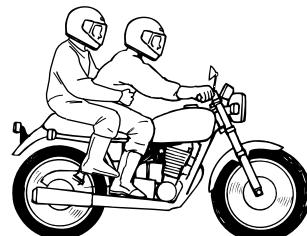
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

● ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。

- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかりと固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



安全運転のために

1

乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



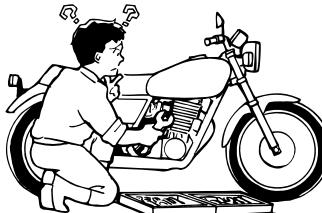
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



JCA15221

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

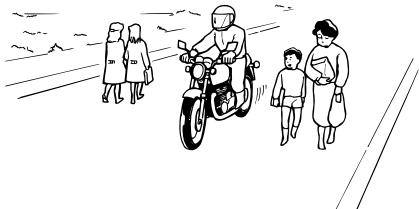
継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（ 251cm^3 以上）は、国

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじやまにならない場所に駐車して

JAU27504

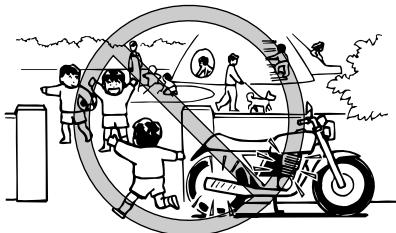
ください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

！警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触るとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

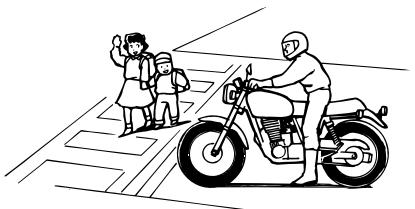
安全運転のために

1

環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



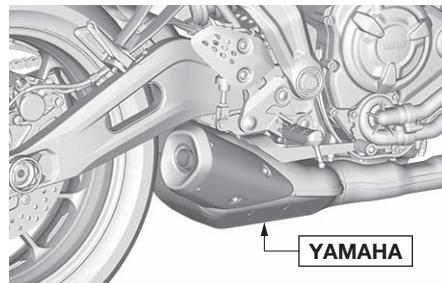
特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



JAU27582

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

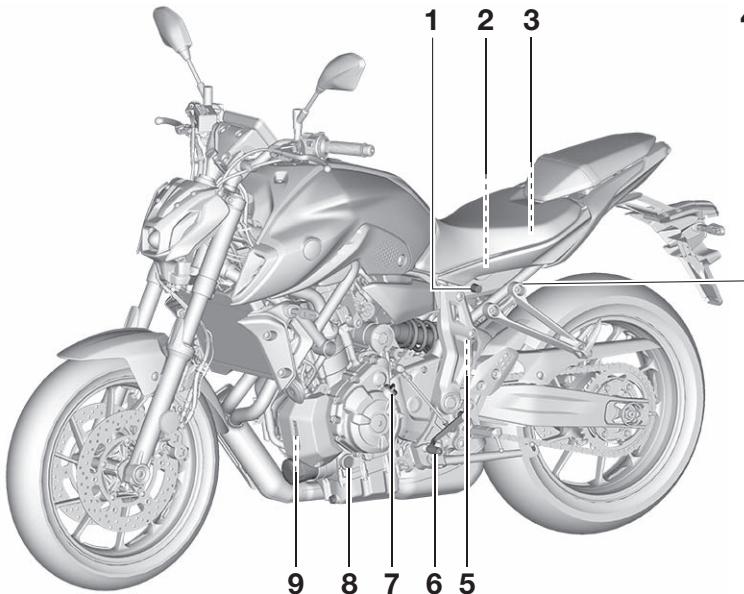


環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの

廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

左側面



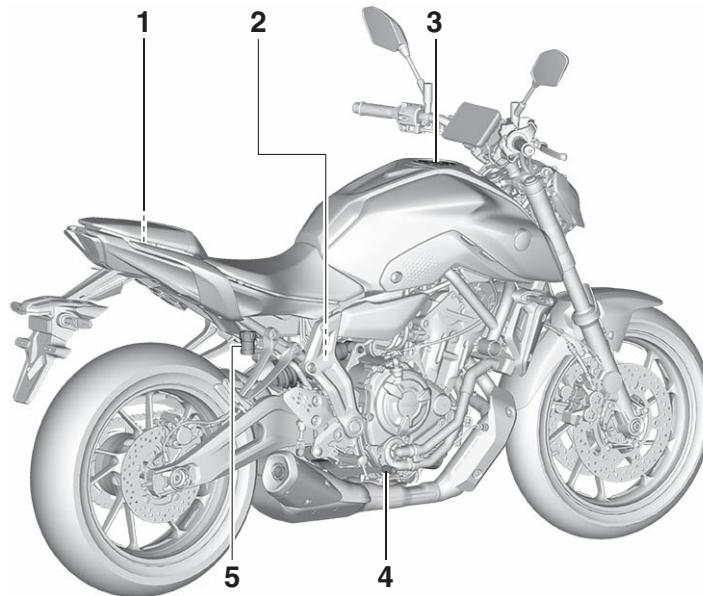
1. シートロック (P4-18)
2. バッテリー (P7-14)
3. ヒューズ (P7-15)
4. ヘルメットホルダー (P4-19)
5. 伸側減衰力アジャスター (P4-20)
6. シフトペダル (P6-2)
7. オイル注入口 (P7-2)
8. エンジンオイル点検窓 (P7-2)
9. リカバリータンク (P7-4)

各部の名称

右側面

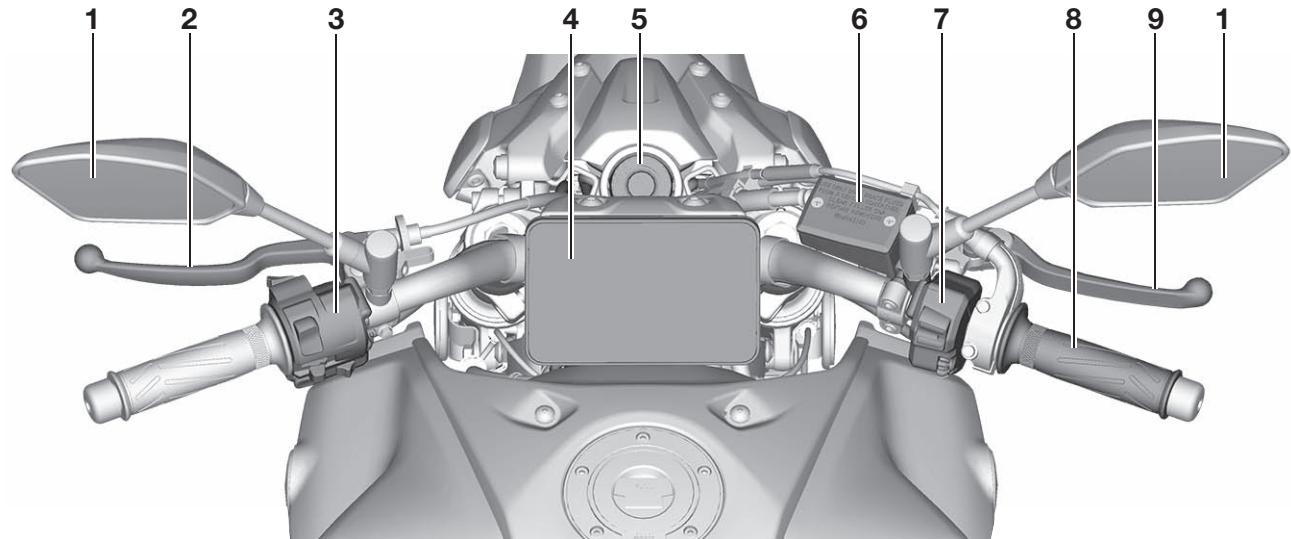
JAU10421

2



1. サービスツール (P7-2)
2. スプリングプリロードアジャスター (P4-20)
3. フューエルタンクキャップ (P4-16)
4. ブレーキペダル (P7-9)
5. リヤブレーキリザーバータンク (P7-10)

運転装置と計器類



1. バックミラー (P7-13)
2. クラッチレバー (P7-8)
3. ハンドルスイッチ (左) (P4-6)
4. マルチファンクションメーター (P4-6)
5. メインスイッチ / ハンドルロック (P4-2)
6. フロントブレーキリザーバータンク (P7-10)
7. ハンドルスイッチ (右) (P4-3)
8. スロットルグリップ
9. ブレーキレバー (P7-9)

車両の特徴

3

クイックシフター（装備している場合）

クイックシフターは電子制御によりスロットルを開けたまま、クラッチレバーを操作しなくてもシフトアップを可能にするシステムです。シフトスイッチがシフトペダルの操作を感じると、エンジン出力や駆動力が瞬間に自動調整されてシフトアップが可能となります。

要点

- クイックシフターは車の速度が 20 km/h 以上でエンジン回転数が 2000 r/min 以上、かつ加速中の場合のみ作動します。クラッチレバーを操作した場合、クイックシフターは作動しません。
- このシステムを有効にするには、オプションのアクセサリーパーツを追加する必要があります。くわしくはヤマハ販売店にお問い合わせください。

JAUM4722

CCU（コミュニケーションコントロールユニット）

このモデルには、車両とスマートフォンを Bluetooth 接続できる CCU が搭載されています。接続するには、スマートフォンアプリ “Yamaha Motorcycle Connect” を使用します。

接続すると、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）アプリからの通知、電話の着信や着信履歴、スマートフォンのバッテリー残量（めやす）を車両のメーターに表示します。

“Yamaha Motorcycle Connect” では、最後に駐車した場所などの情報も確認できます。

要点

本アプリのダウンロードやご利用にかかる通信費はお客様のご負担となります。

JWAN0070



- スマートフォンを操作する場合は、必ず車両を停止させてください。
- 走行中はハンドルから手を離さないでください。
- 常に視線と意識を道路にむけて、運転に集中してください。

中してください。

JCAN0150

注意

次のようなときは Bluetooth 接続が正常にできないことがあります。

- 強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。
- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。

CCU とスマートフォンのペアリング

1. 以下の QR コードを読み込み、“Yamaha Motorcycle Connect” をダウンロードします。

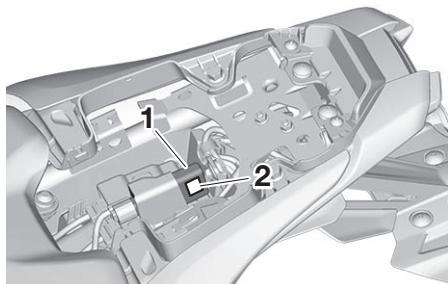


要点

スマートフォンの種類や OS バージョンによっては、“Yamaha Motorcycle Connect” をご利用になれない場合があります。

2. タンデムシートを取り外します。(4-18 ページ参照)

3. CCUを取り外し、“Yamaha Motorcycle Connect”でCCUのQRコードを読み込みます。



1. CCU（コミュニケーションコントロールユニット）
2. CCU の QR コード

要 点

車台番号を入力してペアリングすることも可能です。(10-2 ページ参照) “Yamaha Motorcycle Connect”のログイン画面をご確認ください。

4. ペアリングが完了すると、“Yamaha Motorcycle Connect”アイコンとスマートフォンのバッテリー残量計が表示されます。



1. スマートフォンのバッテリー残量計
2. “Yamaha Motorcycle Connect” アイコン

要 点

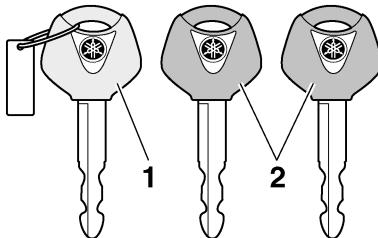
- ペアリングしたスマートフォンはCCUに登録されます。次回、車両の電源をオンにしたとき、“Yamaha Motorcycle Connect”を起動すれば自動的に接続されます。
 - CCU に一度に接続できるスマートフォンは 1 台です。
 - 複数のスマートフォンが CCU に登録されている場合、接続可能範囲内に最初に入ったスマートフォンに接続されます。
5. CCU を元の位置に取り付け、タンデムシートを取り付けます。

各部の取り扱いと操作

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。

また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。

- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザキー（この車のキーも含みます。）と同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮

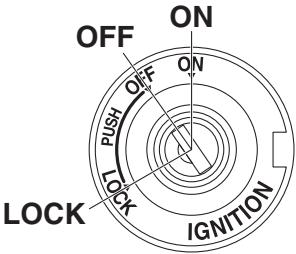
製のものをお勧めします。

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 4-6 ページを参照してください。）

JAU26895

メインスイッチ



JAU10462

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入／切」、ハンドルロックを行います。

警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JWA11621

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリー上がりの原因となります。

4-2

JAU90040

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

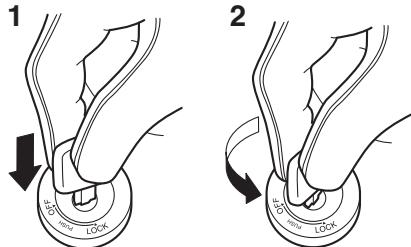
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

各部の取り扱いと操作

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

4



1. 押す
2. 回す

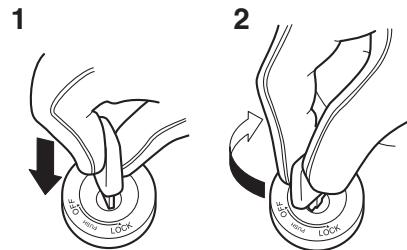
1. ハンドルを左へいっぱいに切れます。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

JAU73803

ハンドルロックの解除のしかた



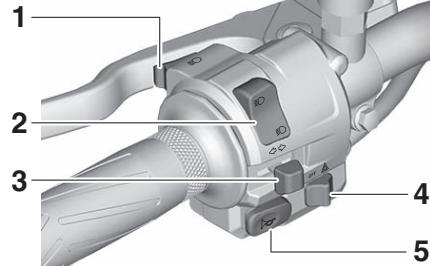
1. 押す
2. 回す

キーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

JAU6605A

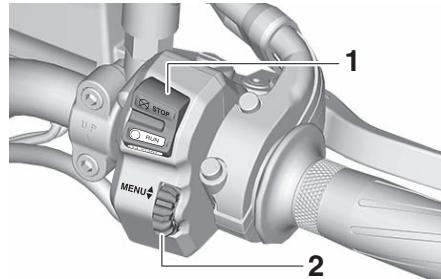
ハンドルスイッチ

<左>



1. パッシングライトスイッチ “”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ / ”
3. 方向指示器スイッチ “ / ”
4. ハザードスイッチ “OFF / ”
5. ホーンスイッチ “”

<右>



1. スターター／エンジンストップスイッチ “ / ”
2. ホイールスイッチ “”

JAU76731

パッシングライトスイッチ “”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要 点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが “” のときは、使用できません。

JAU98390

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ / ”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

(上向き)：遠くを照らします。

(下向き)：近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

方向指示器スイッチ “ / ”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

：右側の方向指示灯が点滅します。

：左側の方向指示灯が点滅します。

JAU85490

!**警 告**

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JWA11641

ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU66061

スターター／エンジンストップスイッチ

“ / ”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “” に合わせてから、スイッチの “” 側を押してください。

JCA11882

!**注 意**

- スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリー上がりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。

非常に、エンジンをすぐに停止させるには “” にします。通常は “” にしておきます。

JWA17700

!**警 告**

非常に、スターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20772

!**注 意**

- 非常に、スターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源をオフにしてください。オ

各部の取り扱いと操作

ンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。

- 走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを“○”→“☒”→“○”にしないでください。エンジン不調の原因となります。

4

要点

“☒”にすると、エンジンは始動できません。

JAU88273

ハザードスイッチ “OFF/△”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、またはLOCKにしてもハザードランプは点滅し続けます。ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードラン

プを長時間使用しないでください。

JAU4939Z

ホイールスイッチ “MENU◆”

このスイッチは、インフォメーションディスプレイおよびメニューシステムを操作することができます。

ホイールスイッチは、次のとおり操作します。

回す - ホイールを上下に回転させます。

短押し - ホイールを短く押し込みます。

長押し - ホイールを1秒以上押し込みます。

要点

●メインディスプレイ画面とその機能についての詳細は、4-6ページを参照してください。

●メニューシステムと設定の変更についての詳細は、4-12ページを参照してください。

JAU98024

警告灯と表示灯



1. イモビライザーシステム表示灯 “”
2. ハザード表示灯 “”
3. 故障表示灯 “”/“”
4. ABS 警告灯 “”

JAU4591

ハザード表示灯 “”

ハザードスイッチを“△”にすると点滅します。

JAU4581

故障表示灯 “”/“”

エンジン警告表示 “” が表示されていると、オレンジ色に点灯します。

水温警告表示 “” または油圧警告表示 “” が表示されていると、赤色に点灯します。

車両の電源をオンにしても表示灯が点灯しないときや、点灯したままになっているとき

は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

ABS 警告灯 “”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

JAU91850

JWA16043

⚠ 警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

- 急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。
- 直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

JAU0280 イモビライザーシステム表示灯 “”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライ

ザーシステムは機能しています。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

メインディスプレイ画面

ディスプレイのメイン画面には、ストリート(STREET) とツーリング(TOURING) という、2 つの異なるビジュアルテーマがあります。両テーマにおいて、使用できる機能に差異はありません。テーマはメニュー画面で選択できます。(4-13 ページを参照)

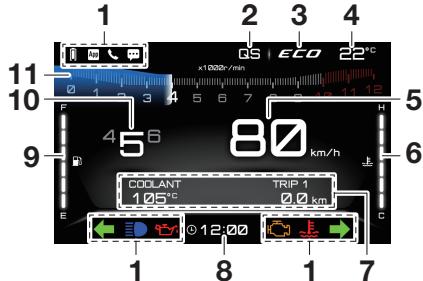
JWA18210

⚠ 警 告

設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

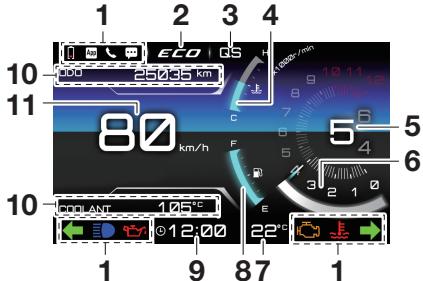
各部の取り扱いと操作

ストリート (STREET) テーマ



1. 表示アイコン
2. クイックシフター表示 “QS” (装備している場合)
3. エコ表示 “ECO”
4. 気温計
5. スピードメーター
6. 水温計
7. インフォメーションディスプレイ
8. 時計
9. 燃料計
10. ギヤポジション表示
11. タコメーター

ツーリング (TOURING) テーマ



1. 表示アイコン
2. エコ表示 “ECO”
3. クイックシフター表示 “QS” (装備している場合)
4. 水温計
5. ギヤポジション表示
6. タコメーター
7. 気温計
8. 燃料計
9. 時計
10. インフォメーションディスプレイ
11. スピードメーター

摂氏と華氏の間で、切り替えることができます。(4-14 ページを参照)

ポップアウトメニュー

メニューの最上位階層は、メイン画面右側に表示されるポップアウトメニューです。ポップアウトメニューが表示されている間、他の表示項目は、次のように再配置または非表示となります。

ストリート (STREET) テーマ



1. ポップアウトメニュー

要点

- このモデルは TFT LCD により、様々な光
源下での良好なコントラストおよび見易
さを実現しています。しかし、場合によつ
ては少し見えにくい部分が出ることもあ
ります。
- 表示単位は、キロメートルとマイルおよび

ツーリング (TOURING) テーマ



1. ギヤポジション表示

スピードメーター

スピードメーターは、現在の車速を表示します。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

タコメーター

タコメーターは、毎分のエンジン回転数を表示します。回転数は、クランクシャフトの 1 分あたりの回転数により計算されます (r/min)。

JCA10032

注意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。

レッドゾーン : 10000 r/min 以上

燃料計

フューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントが “F” (満) から “E” (空) 方向に消えていきます。最後のセグメントが点滅を始めたら、速やかに給油してください。

JCAE0121

注意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

要 点

全てのセグメントが繰り返し点滅する場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

水温計

ラジエターの冷却水の温度を表示します。水温が高すぎる場合は、一番上のセグメントが点滅します。

要 点

全てのセグメントが繰り返し点滅する場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

時計 “①”

時計は 12 時間表示です。

要 点

表示時刻は、メニュー画面で調整できます。(4-15 ページを参照)

ギヤポジション表示

ギヤが何速に入っているかを表示します。このモデルは、ニュートラルと 6 段変速です。ニュートラル位置は、ニュートラルランプ “N” により表示されます。

要 点

異常が検知されると、“-” が表示されます。

“ECO” 表示

環境にやさしく、燃費の良い状態で車両を運転している場合に点灯します。アイドリング時は表示が消灯します。

要 点

燃費を抑えるには、次のことを心がけて運転してください。

- 加速中にエンジン回転数を高くしない
- 一定の速度で走行する
- 速度に適したギヤを選択する

各部の取り扱いと操作

気温計

-9°Cから50°Cまでの気温を1°C刻みで表示します。表示される気温は、外気温と一致していない場合があります。

要 点

検出した気温が表示範囲よりも高いもしくは低い場合、“---”が表示されます。

水温警告表示 “”

エンジン冷却水温が高いときにこの警告アイコンが表示されます。車両を停止させてエンジンをオフにし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告表示 “”

エンジン運転中に油圧が低下すると、このアイコンが表示されます。車両の電源をオンにしたときは、エンジン油圧が掛かっていないため、エンジンを始動するまでこのアイコンが点灯します。

要 点

異常が検知されると、この警告アイコンが繰り返し点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

エンジン警告表示 “”

エンジンもしくはその他の車両制御システムに異常が発生したときに、点灯もしくは点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにすると、警告表示が数秒間点灯し、その後消灯します。警告表示が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が

損傷する可能性があります。

要 点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告表示が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告表示の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。

- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リヤブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッッチの多用などの行為はしないでください。

ヘッドライト上向き表示 “”

ヘッドライトを上向きにすると表示されます。

方向指示器表示 “” / “”

方向指示器に合わせて点滅します。

スマートフォンバッテリー残量表示 “”

接続されているスマートフォンのバッテリー残量レベルを示します。

- アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
- “”： 中央のバーが上下に動き、バッテリーの残量を示します。

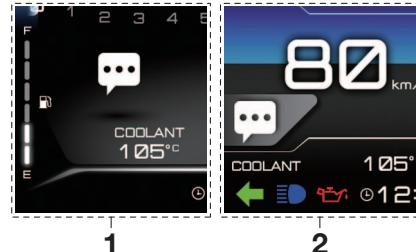
バッテリー残量が 11% 未満になると、表示が赤色に変わり、点滅し続けます。

スマートフォン接続表示 “”

スマートフォンがCCUに正常に接続されると点灯します。

着信 / メッセージ受信表示

接続したスマートフォンに電話がかかってくると表示され、30秒間表示されたままになります。



1. ストリート (STREET) テーマ
2. ツーリング (TOURING) テーマ

ストリート (STREET) テーマで着信またはメッセージ受信のアイコンが表示された場合、ギヤポジション表示は次のように再配置されます。



1. ストリート (STREET) テーマ
2. ツーリング (TOURING) テーマ

接続したスマートフォンがSMSやメールなどの通知を受信すると表示され、10秒間表示されたままになります。



1. ギヤポジション表示

各部の取り扱いと操作

要 点

- 一度にひとつのアイコンしか表示されません。着信表示アイコンが優先的に表示されます。
- 接続するスマートフォンのアプリごとに通知の設定を事前に行っておく必要があります。

不在着信表示 “✉”

接続したスマートフォンが不在着信すると表示されます。車両の電源をオフにするか、メニューシステムの “Telephone” から “Cancel Notification” を選択すると消灯します。(4-13 ページを参照)

未読メッセージ表示 “✉”

接続したスマートフォンがメッセージを受信すると表示されます。車両の電源をオフにするか、メニューシステムの “Telephone” から “Cancel Notification” を選択すると消灯します。(4-13 ページを参照)

クリックシフター表示 (装備している場合)

クリックシフターが有効になると表示されます。表示されていないときは操作できません。

ん。

インフォメーションディスプレイ

車両の操作に必要な機能と情報を表示できます。

- “ODO”: オドメーター
- “COOLANT”: 水温計
- “TRIP 1”: トリップメーター 1
- “TRIP 2”: トリップメーター 2
- “TRIP F”: フューエルトリップメーター
- “INST FUEL”: 瞬間燃費
- “AVG FUEL”: 平均燃費

ホールスイッチ “” を回転させると項目が切り替わります。

インフォメーションディスプレイは、次のように操作してください。

ホールスイッチ “” で、どの項目を表示させるかを選択します。

ホールスイッチ “” を短押しすると(内側に短時間押しこむ)、現在表示されている一番上(ツーリングテーマ)または一番左(ストリートテーマ)にある項目が青くハイライト表示されます。リセットできない項目の場合、他方のアイテムが青くハイライト表示されます。どちらもリセットできない場合、ホールスイッチ “” を短押ししても、効果がありません。

ホールスイッチ “” を長押しすると(内側に長時間押し込む)、青くハイライトされた項目がリセットされます。

ホールスイッチ “” を短押しすると、青くハイライトされた項目の選択を解除できます。

要 点

- “TRIP 1”、“TRIP 2”、“TRIP F”、“AVG FUEL” は個別にリセットできます。
- 青くハイライト表示されたアイテムは、ホールスイッチ “” からの入力がないと、数秒後に選択が解除されます。

オドメーター “ODO”:

車両の総走行距離を表示します。

要 点

オドメーターは最大値 (999999 km) で固定され、リセットできません。

水温計 “COOLANT”:

冷却水の温度を、40°C から 116°C まで 1°C 刻みで表示します。

要 点

- 冷却水の温度が 40°C 未満の場合、“Low

Temp”と表示されます。

- 冷却水の温度が116°C以上の場合、“High Temp”と表示されます。

トリップメーター “TRIP 1” / “TRIP 2”:
“TRIP 1”と“TRIP 2”は、ゼロにリセットされてからの走行距離を表示します。

要 点

“TRIP 1”と“TRIP 2”は、9999.9に到達すると0.0にリセットされ、カウントを続けます。

フューエルトリップメーター “TRIP F”:
燃料タンクの予備レベルに達すると、自動的に“TRIP F”が表示され、その時点からの走行距離の計測を始めます。
“TRIP F”は、給油後ある程度の距離を走行すると表示されなくなります。

瞬間燃費 “INST FUEL”:

瞬間燃費は“km/L”または“L/100km”に設定できます。(4-14 ページを参照)

要 点

- 10 km/h未満の速度で走行している場合は、“---”と表示されます。

- “MPG”はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

平均燃費 “AVG FUEL”:

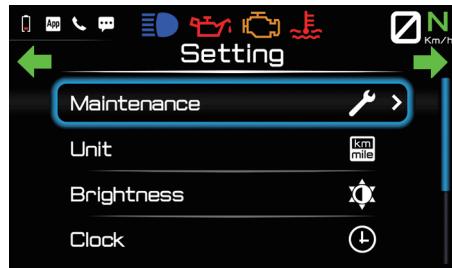
平均燃費は“km/L”または“L/100km”に設定できます。(4-14 ページを参照)

要 点

- 平均燃費をリセット後は、1 km 走行するまで“---”と表示されます。
- “MPG”はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

メニュー・システム

メニュー・システムの最上位階層は、メイン画面右側に表示されるポップアウトメニューです。(4-7 ページを参照) 他のメニュー画面では、メイン画面がフルスクリーン(全画面)表示になります。メニュー・システムがフルスクリーン表示となっている間、メイン画面の表示項目は、次のとおり再配置または非表示となります。



要 点

- メニュー・システムは、車両が動いているときや特定の警告灯・表示灯類が点灯しているときには、使用できません。メニュー・システムが表示中にこの状況が発生した場合は、ディスプレイがメイン画面の表示に戻ります。
- ホイールスイッチ“**MENU**”が10秒間操作さ

各部の取り扱いと操作

れないと、メニューシステム画面が閉じて、ディスプレイがメイン画面の表示に戻ります。

4

メニューシステムの一般的な操作：

この車両のメニューシステムは、ハンドルバー右側のホイールスイッチ “**MENU◆**” で操作できます。

- メイン画面の表示中に、ホイールスイッチ “**MENU◆**” を長押しすると、メニューシステムが最前面に表示されます。
- ホイールスイッチ “**MENU◆**” を回転させると、アイテムを切り替えまたはハイライト表示させたり、選択されたアイテムの値を調整したりできます。
- ホイールスイッチ “**MENU◆**” を短押しすると、ハイライト表示されたモジュールを開いたり、青くハイライト表示された項目の選択および選択解除ができます。項目が選択されると、グレー表示になります。
- メニュー項目が選択されている場合、ホイールスイッチ “**MENU◆**” を長押しすると、設定が確定され、メニュー画面が一つ前の表示に戻ります。
- メニュー項目が選択されていない場合は、ホイールスイッチ “**MENU◆**” を長押しすると、

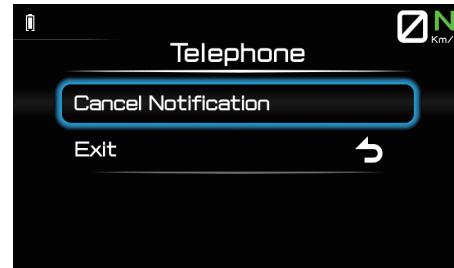
メニューシステムが終了して、メイン画面の表示に戻ります。

メニューシステムは、次のメインモジュールに大別されます。

 “Setting”	マルチファンクションメーターの操作に関連した設定を行います。(4-14 ページを参照)
 “Themes”	ディスプレイの表示テーマを切り替えます。(4-13 ページを参照)
 “Telephone”	着信および不在着信の設定を行います。(4-13 ページを参照)
 “Message”	着信および未読通知の設定を行います。(4-13 ページを参照)

選択して、メイン画面に適用できます。

“ Telephone”



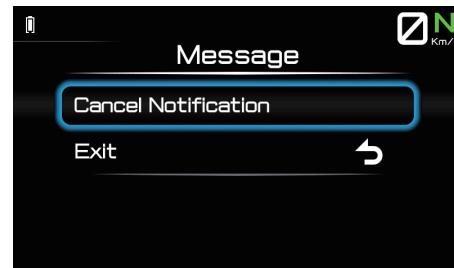
着信関連の通知を消去できます。“Cancel Notification”を選択して、着信および不在着信のアイコンをメイン画面から消去できます。

“(Themes”



表示テーマの切り替えができます。テーマを

“ Message”



メッセージ関連の通知を消去できます。“Cancel Notification”を選択して、未読通知のアイコンをメイン画面から消去できます。

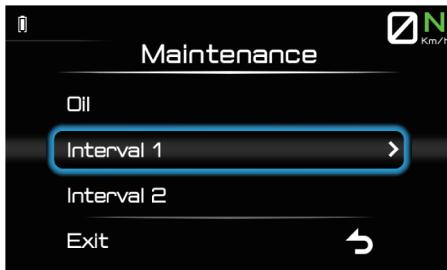
“Setting”



設定メニューは、さらに次のモジュールに分類されます。

“Maintenance”	メンテナントリップメーターを設定します。(4-14 ページを参照)
“Unit”	使用単位を切り替えます。(4-14 ページを参照)
“Brightness”	画面の明るさを調節します。(4-15 ページを参照)
“Clock”	時刻設定します。(4-15 ページを参照)
“All Reset”	システム設定をリセットします。(4-15 ページを参照)

“Maintenance”



エンジンオイルの交換 (“Oil”) または任意のメンテナンス (“Interval 1”/ “Interval 2”) からの走行距離を記録します。ホイールスイッチ “MENU◆” を短押ししてサブモジュールに入り、現在の走行距離の表示またはリセットを行います。



いずれかのメンテナンスが完了したら、ホイールスイッチ “MENU◆” を短押しして当該ア

イテムを選択し、さらにホイールスイッチ “MENU◆” を長押しして表示をリセットしてください。

“Unit”



測定や表示に用いる単位を選択できます。それぞれのサブメニューから単位を選択します。

要点

“mile” が速度表示に用いられている場合、燃費表示も自動的に “MPG” となり、メニュー項目がグレーアウト表示（選択不可）となります。

各部の取り扱いと操作

“Brightness”



画面の明るさを 3 段階で調節できます。

要 点

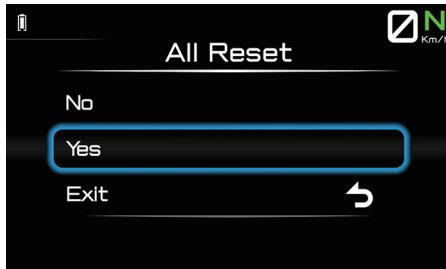
TFT 画面に装備の照度センサーにより、画面の明るさは自動で調整されます。このモジュールを使うと、自動調整が無効となります。メインスイッチを “OFF”/“ON” とすると、自動照度調整モードに戻ります。

“Clock”



時刻調整ができます（12 時間表示）。時と分は、個別に設定できます。

“All Reset”



すべてのトリップメーター（メンテナンストリップメーターを除く）と使用単位の設定を、一括でリセットできます。

JAU63041

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントローラユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

警 告

- ABS は制動距離を短くする装置ではありません。
- 未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。

要 点

- ABSが作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんのが、故障ではありません。
- この ABS には、ABS が作動している状態（ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる）を体感できるテストモード

があります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

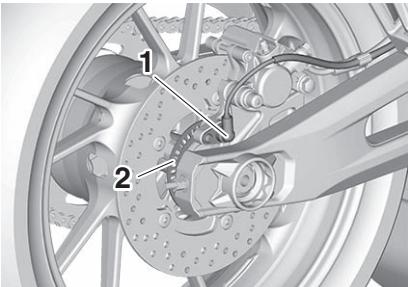
JCA20100

注意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABSの性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサー ローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサー ローター

JAU13077

フューエルタンクキャップ

JWA12172

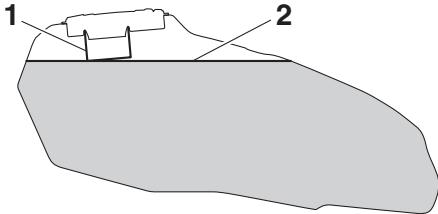
！警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあります。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実

各部の取り扱いと操作

に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 純油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。

2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28313

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 13 L

JCA12512

注 意

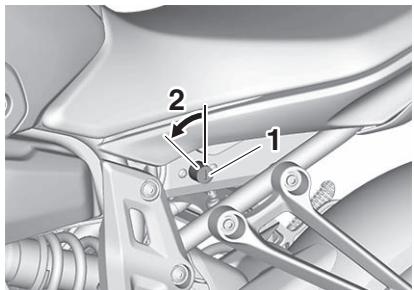
- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

シート

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

- キーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。



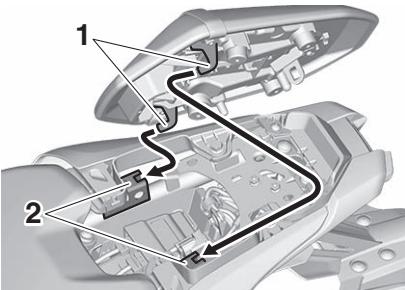
- シートロック
解除
- キーの位置はそのまま、タンデムシートの後部を少し持ち上げ、後方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

- タンデムシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みま

JAU83851

す。

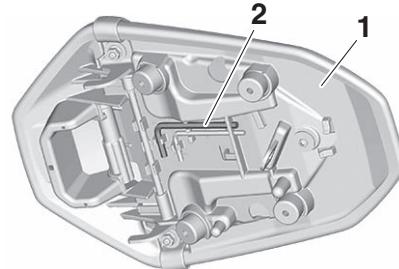


- 突起
- シートホルダー
- タンデムシートの後部を押し、タンデムシートをロックします。
- キーを抜き取ります。

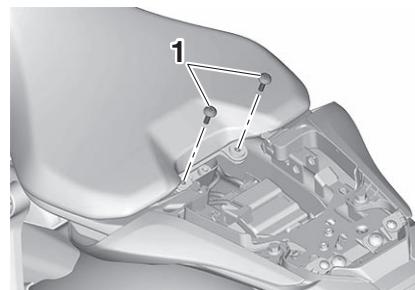
ライダーシート

ライダーシートの取り外しかた

- タンデムシートを取り外します。
- タンデムシートの裏側にある六角レンチを使用して、ライダーシート下側のボルトを取り外します。



- タンデムシート
- 六角レンチ



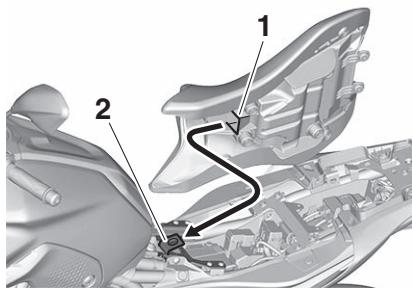
- ボルト
- ライダーシートを取り外します。

ライダーシートの取り付けかた

- ライダーシートにある溝を図のようにして突起に差し込みます。

各部の取り扱いと操作

4

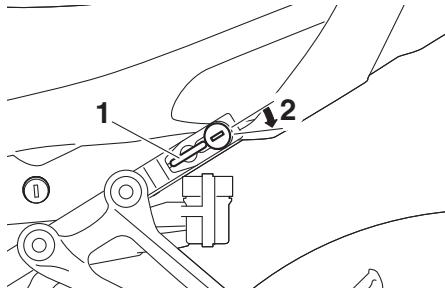


1. 溝
2. 突起
2. 六角レンチを使用してボルトを締め付けます。
3. 六角レンチをタンデムシートの裏側に戻します。
4. タンデムシートを取り付けます。

要 点

走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
 2. 解除
- キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

！警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

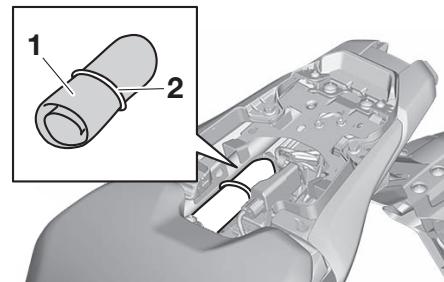
ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU14283

JAU12900

書類入れ

車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れ（収納用ポーチ）に保管してください。書類入れは、丸めてゴムバンドで固定し、タンデムシートの下に収納してください。（タンデムシートの取り外しは4-18ページを参照してください。）



1. 書類入れ
2. ゴムバンド

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターと伸側減衰力アジャスターが装備されています。

JAU57944

警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

JWA12441

注 意

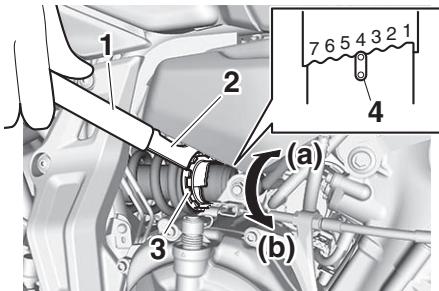
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

JCA11911

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。

アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。



1. エクステンション
2. 調整レンチ
3. スプリングプリロードアジャスター
4. インジケーター

要 点

サービスツール内の調整レンチとエクステンションを使って調整を行います。

スプリングプリロード :

最小 (ソフト) :

1 段

標準 :

4 段

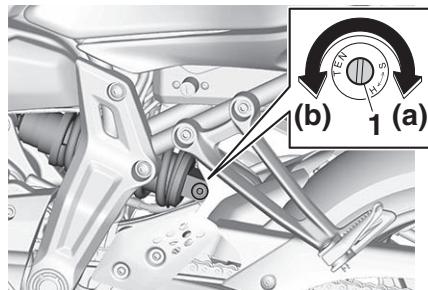
最大 (ハード) :

7 段

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力 :

最小 (ソフト) :

(b) 方向へ 2.5 回転

標準 :

(b) 方向へ 1.5 回転

最大 (ハード) :

(b) 方向へ 0 回転

各部の取り扱いと操作

要 点

アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA10222



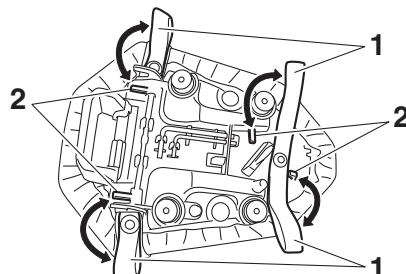
リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。

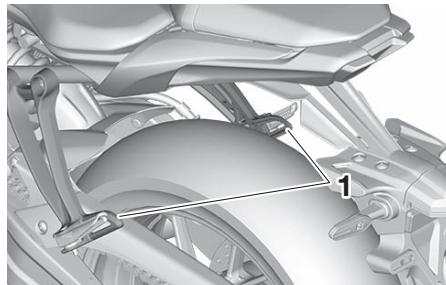
JAU85221

荷掛けフック

フックから荷掛けフックを外します。(4-18ページ参照) 荷掛けフックを外側に出した状態でタンデムシートを取り付けます。



1. 荷掛けフック
2. フック



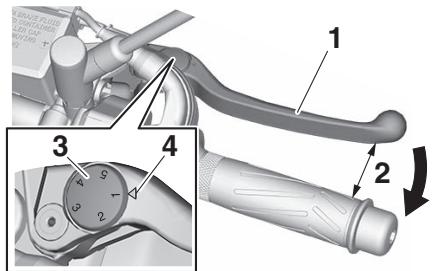
1. 荷掛けフック

図に示した荷掛けフックを使用し、荷物を固定します。

タンデムシートの下側の荷掛けフックを使用するには、タンデムシートを取り外し、

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が5段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター
4. 合マーク

要 点

アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

JAU45543

JAU70642

JAU15306

DC コネクター

この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。

コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

4

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについて)は次の項目を参照してください。

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサークリットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

各部の取り扱いと操作

JAU44895

イグニッションサーキットカット オフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

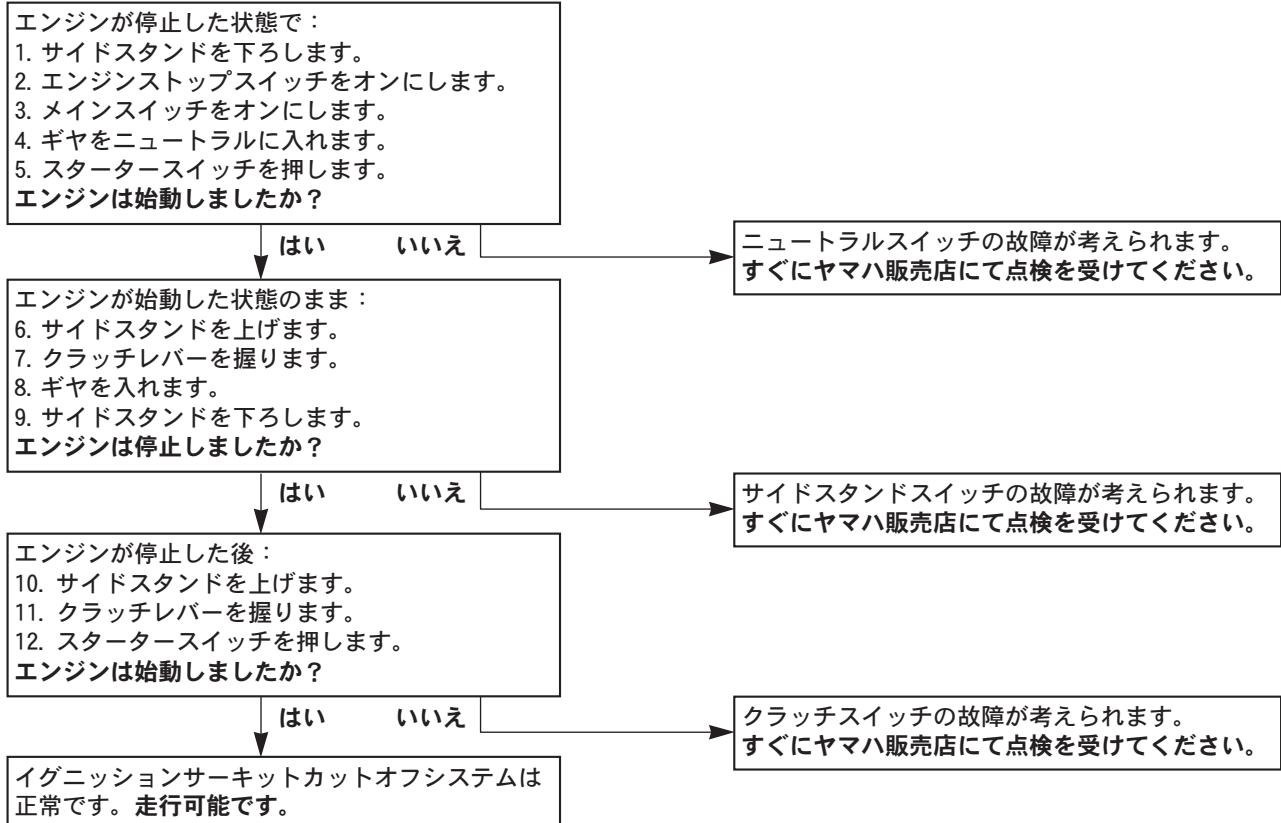
要 点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、4-2 ページを参照してください。

JWA11541

!**警 告**

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。



日常点検

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JAU1559B

JWA12032

5

!**警 告**

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

JAU30142

JWA11733

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none">● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none">● タイヤの空気圧が適当であること。● 亀裂、損傷がないこと。● 異常な摩耗がないこと。● 溝の深さが充分であること。 (※)
エンジン	<ul style="list-style-type: none">● 冷却水の量が適当であること。 (※)● エンジンオイルの量が適当であること。 (※)● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。 (※)● 低速、加速の状態が適当であること。 (※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none">● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none">● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

!**警 告**

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

ならし運転

ならし運転のしかた

初回 1か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。

ならし運転中はエンジン回転数を 6000 r/min 以下で走行してください。

また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。

ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU31471

JAU27665

エンジン始動



警 告

- エンジンを始動するときには、4-23 ページに記述された手順で、イグニッション サーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

1. メインスイッチを “ON” にし、スター／エンジンストップスイッチが “O” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの “④” 側を押して、エンジンを始動します。

要 点

スターター／エンジンストップスイッチで5

JAU78763

JWA11562

秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター／エンジンストップスイッチを押してください。

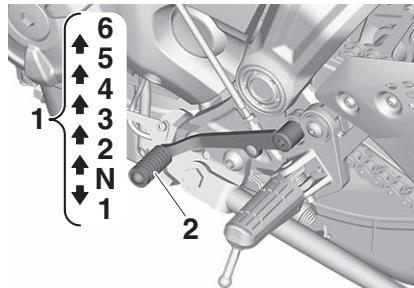
JCA16661

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

運転操作

ギヤチェンジのしかた



JAU27517

6

1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の6段変速です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要 点

ニュートラル（N）にシフトするには、繰り返しシフトダウンして1速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA10262

注意

- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。

- ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスマッションの潤滑が不十分になり、トランスマッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安に行ってください。

走行速度

- 1速 : 0 km/h-70 km/h
- 2速 : 20 km/h-95 km/h
- 3速 : 25 km/h-120 km/h
- 4速 : 30 km/h-155 km/h
- 5速 : 35 km/h-180 km/h
- 6速 : 40 km/h 以上

シフトダウン速度

- 6速 → 5速 : 145 km/h 以下
- 5速 → 4速 : 120 km/h 以下
- 4速 → 3速 : 95 km/h 以下
- 3速 → 2速 : 75 km/h 以下
- 2速 → 1速 : 55 km/h 以下

JWA20720

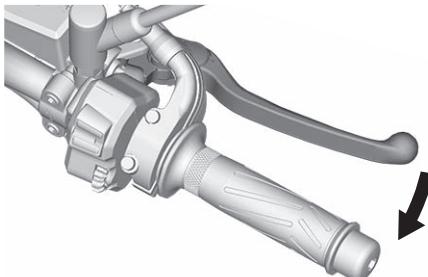
警 告

法定速度を守って走行してください。

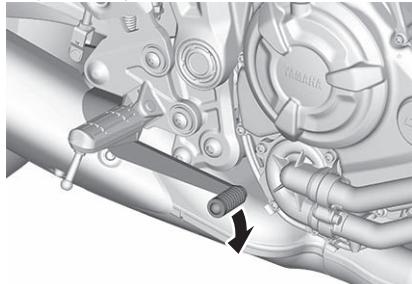
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



！警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特に

JAU33176

どちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。

- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいくことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JAU17214

JWA11582

！警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

注意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JCA26500

点検整備

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行なうことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JAU29839

JWA15461

!**警 告**

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

JWA12055

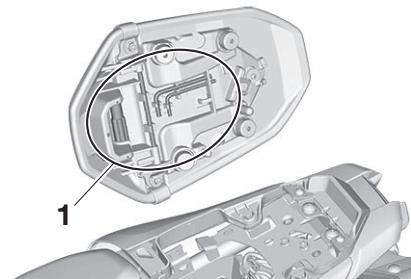
!**警 告**

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自分でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール



1. サービストール

サービスツールは図で示す場所にあります。また、車両購入時に別に手渡されるサービスツールがあります。

JAU85240

エンジンオイル

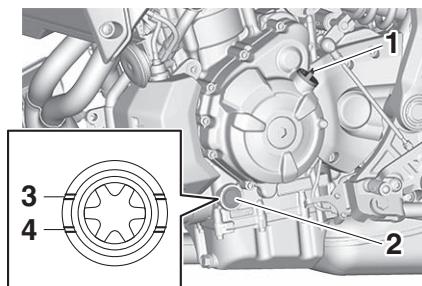
エンジンオイル量の点検

- 平坦な場所でエンジンを2~3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

- エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。



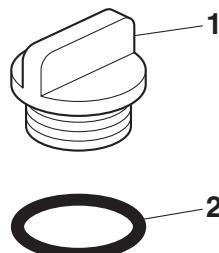
1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

JAU30378

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、8-3 ページ参照)

要 点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



7

1. オイル注入口キャップ
2. O リング

点検整備

エンジンオイルの交換時期

JAU47505

初回：

1か月点検時または1000 km 時

2回目以降：

10000 km 走行ごと、または1年
ごと

エンジンオイル量：

オイル交換時：

2.30 L

オイルフィルター取り外し時：

2.60 L

7

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：

1か月点検時または1000 km 時

2回目以降：

30000 km 走行ごと

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

JWA11861



警 告

- 走行後など、しばらくの間はマフラー やエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12261

注 意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛けりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぶった布などでふき取ってください。

JAU44194

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール(エンスト)やノックキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

JWA15531

JAU20071

冷却水

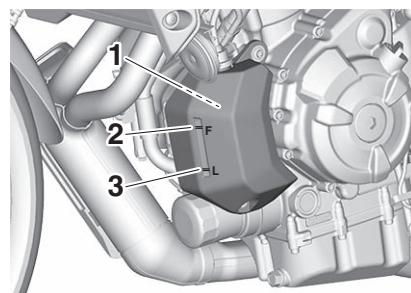
冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。

7



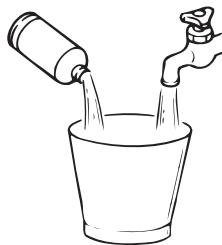
1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参考して補充してください。

点検整備

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクラントと水道水を1対1で混ぜ合わせます。



JAU30805

JCA12112

ださい。

注意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

7



警 告

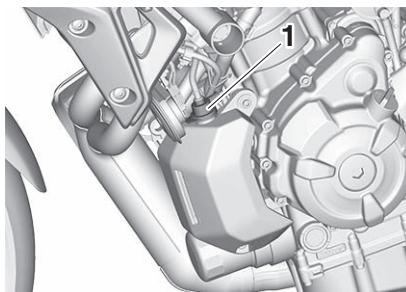
クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JWA11882

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、口アレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JAU30812

注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってく

JCA12121

エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。

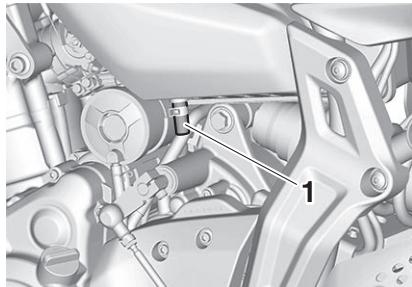
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。

ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

プローバイガス還元装置のブリーザード

レンホースの清掃

- ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



- プローバイガス還元装置のブリーザードレンホース
- 汚れや水があった場合は、ブリーザード

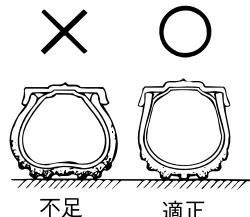
JAU62420

レンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。

点検整備

タイヤ空気圧（冷間時）：

1名乗車：

前輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

2名乗車：

前輪：

225 kPa (2.25 kgf/cm²)

後輪：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

7

要点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

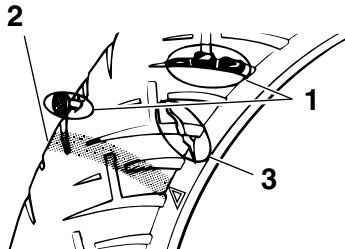
タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着してい

JAU28642

ます。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウエアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が1.0mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪1.6mm、後輪2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

！警告

- タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なる銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすことがありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり

減ったタイヤは交換してください。

- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：

120/70 ZR 17M/C(58W)

後輪：

180/55 ZR 17M/C(73W)

指定タイヤ：

前輪：

MICHELIN/ROAD 5

後輪：

MICHELIN/ROAD 5

クラッチ

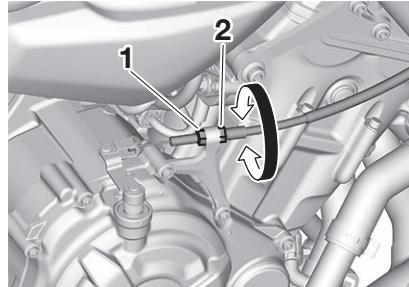
JAU48222

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

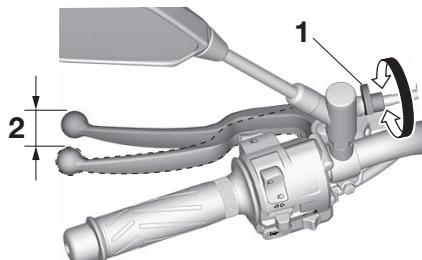
クラッチレバーの遊び

5.0-10.0 mm



1. ロックナット

2. アジャスター



1. アジャスター

2. 遊び

点検の結果、調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。
レバー側のアジャスターでクラッチレバーの遊びを規定値内に調整できない場合は、クランクケース右側にあるロックナットをゆるめて、アジャスターで調整します。

JWA11841

7

警 告

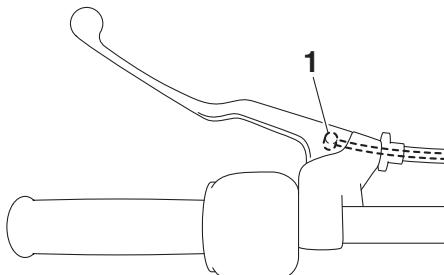
調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注 意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。

点検整備



1. ケーブル取り付け部

7

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU31122

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

!**警 告**

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

!**警 告**

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

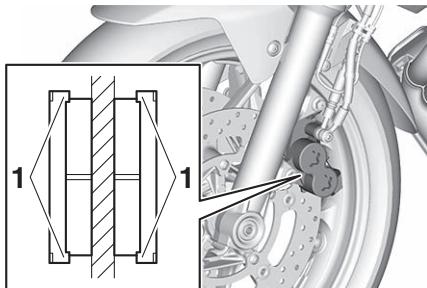
ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプはABSの構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

<フロントブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

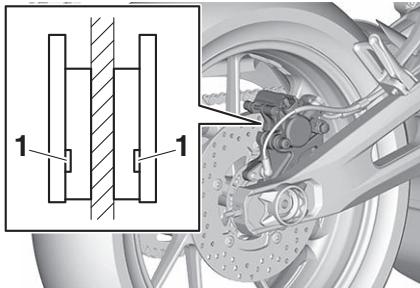


1. インジケーター

<リヤブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

JAU49291

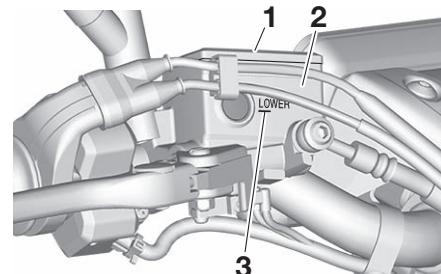


1. インジケーター溝

JAU44233

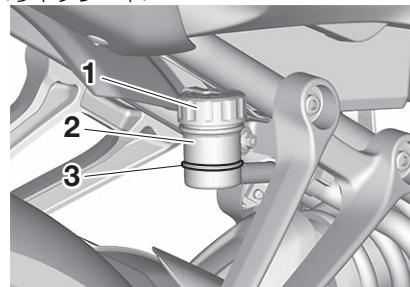
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

<リヤブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

点検整備

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

警 告

- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

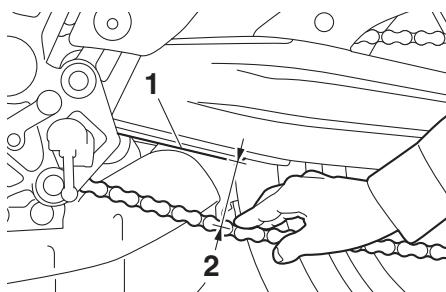
7

ドライブチェーン

JAU22762

ドライブチェーンの点検

JAU60046



1. ドライブチェーンガード
2. セット長 A

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。ドライブチェーンガード端の下側で、ドライブチェーンを手で下側に押します。このとき、セット長 A が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要 点

セット長 A (ドライブチェーンのたわみ量) を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

セット長 A :

51.0-56.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

ドライブチェーンのたわみ量が 58.0mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

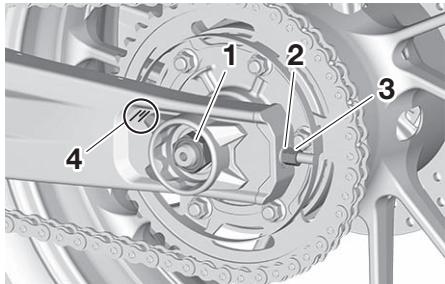
また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU57971

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 刻み目盛り
5. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要 点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク :

セルフロッキングナット :
105 N·m (10.5 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク :

ロックナット :
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

注 意

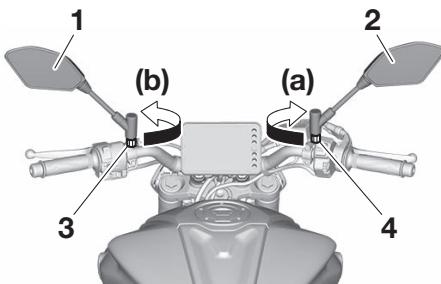
この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

JAU43562

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

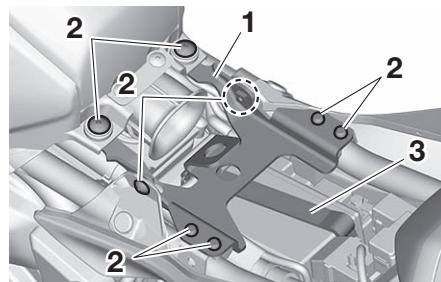
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JAU28762

バッテリーの取り外し

- ライダーシートを取り外します。(4-18 ページ参照)

- ボルトを外し、ライダーシートホルダーを取り外します。



警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。

- 補充電は風通しのよいところで行ってください。

- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。

- 落下などの強い衝撃を加えないでください。

JWA11811

- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。

- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

注 意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。

- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。

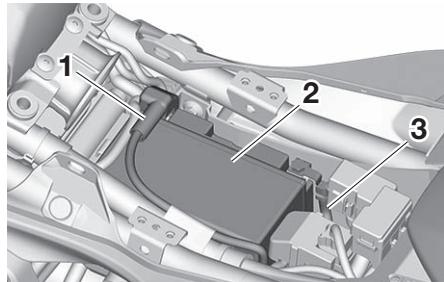
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にて相談ください。

- 長期間ご使用にならないときは、3か月ごとに補充電してください。

- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU92900

点検整備

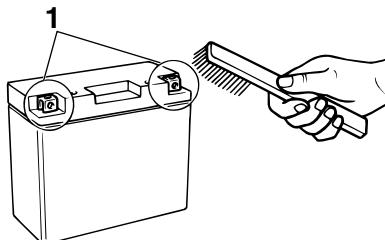


1. +リード線
2. バッテリー
3. -リード線
5. バッテリーを取り外します。

7

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。



1. ターミナル

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

JAU29411

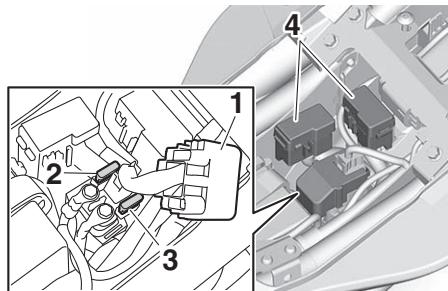
JAU59876

ヒューズ交換

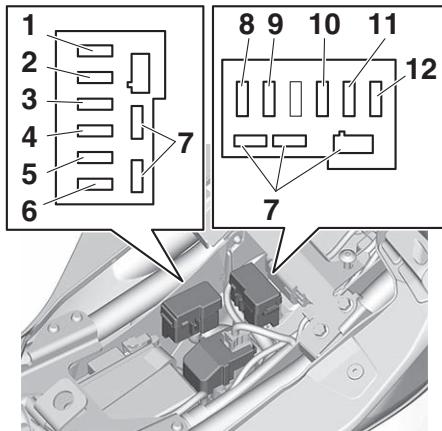
メインヒューズと系統別ヒューズボックスは、ライダーシートの下にあります。(4-18ページ参照)

要 点

メインヒューズを交換するときは、スターターリレーカバーを外す必要があります。



1. スターターリレーカバー
2. メインヒューズ
3. スペアメインヒューズ
4. ヒューズボックス

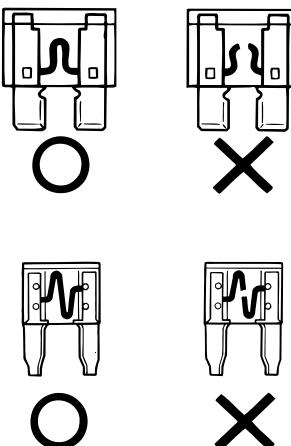


1. ラジエターファンモーターヒューズ
2. バックアップヒューズ
3. フューエルインジェクションヒューズ
4. ヘッドライトヒューズ
5. シグナルヒューズ
6. イグニッションヒューズ
7. スペアヒューズ
8. ABS ソレノイドヒューズ
9. ABS モーターヒューズ
10. アクセサリーヒューズ
11. ABS ECU ヒューズ
12. DC ターミナルヒューズ 1

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。

2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ:

メイン:

30.0 A

DC ターミナル 1:

3.0 A

ヘッドライト:

7.5 A

シグナル:

7.5 A

イグニッション:

7.5 A

ラジエターファンモーター:

10.0 A

ABS ECU:

7.5 A

フューエルインジェクション:

10.0 A

ABS モーター:

30.0 A

ABS ソレノイド:

20.0 A

バックアップ:

7.5 A

アクセサリー:

7.5 A

点検整備

JCA12862

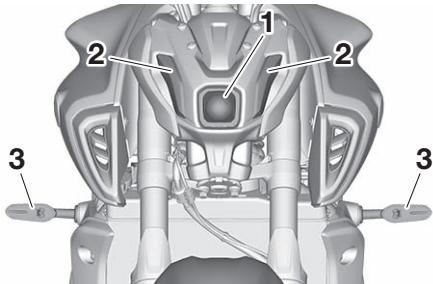
注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29447

灯火装置および方向指示灯の点検



1. ヘッドライト
2. マーカーランプ
3. 方向指示灯（前）

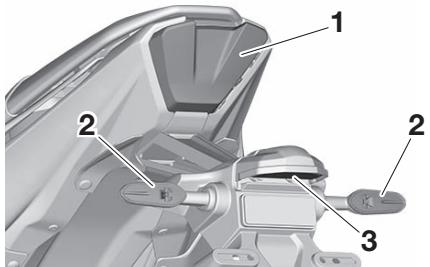
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-15ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。



1. ブレーキ / テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

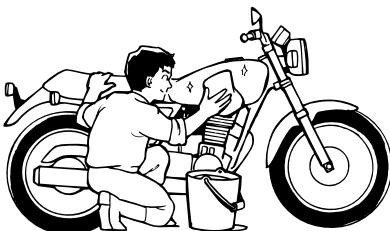
注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックス掛けはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックス掛けをしてください。(マット塗装部分を除く)



JWA11931

！警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることが

あります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12215

注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- ウィンドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることができます。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

キャストホイールの取り扱い

JAU27991

走った後は、すぐに水洗いをしてください。

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないよう、お手入れをしてください。

JWA11951

！警 告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

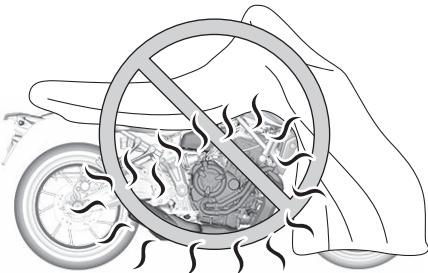
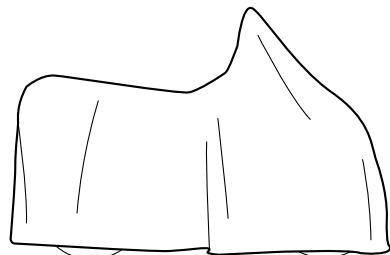
- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを

お車の手入れ

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



JAU35912

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックス掛けをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
 - バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。
 - 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
- ※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA13111

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28087

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。

高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

JAU28116

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル

ル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。

価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。

ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。

ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。

コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次のURLを入力してホームページを参照するか、

製品仕様

寸法:	動弁機構:	リヤタイヤ:
全長: 2085 mm	DOHC	種類: チューブレス
全幅: 780 mm	配列: 直列	サイズ: 180/55 ZR 17M/C(73W)
全高: 1115 mm	気筒数: 2気筒	メーカー / 銘柄: MICHELIN/ROAD 5
シート高: 805 mm	総排気量: 688 cm ³	動力伝達機構:
軸間距離: 1400 mm	フロントブレーキ: ブレーキ形式: 油圧式ダブルディスクブレーキ 指定ブレーキフルード: BF-4 (DOT-4)	1速: 2.846 (37/13)
最低地上高: 140 mm	リヤブレーキ: ブレーキ形式: 油圧式シングルディスクブレーキ 指定ブレーキフルード: BF-4 (DOT-4)	2速: 2.125 (34/16)
重量:	フロントタイヤ: 種類: チューブレス サイズ: 120/70 ZR 17M/C(58W) メーカー / 銘柄: MICHELIN/ROAD 5	3速: 1.631 (31/19)
車両重量: 184 kg		4速: 1.300 (26/20)
乗車定員: 2名		5速: 1.090 (24/22)
性能:		6速: 0.964 (27/28)
最小回転半径: 2.7 m		エレクトリカル: 電圧: 12V
エンジン:		バルブワット数: ヘッドライト: LED
行程: 4ストローク		
冷却方式: 水冷		

ブレーキ / テールランプ:	バッテリー容量:
LED	12 V, 8.6 Ah (10 HR)
方向指示灯（前）:	スパークプラグ:
LED	メーカー / 型式:
方向指示灯（後）:	NGK/LMAR8A-9
LED	プラグギャップ:
番号灯:	0.8–0.9 mm
5.0 W	
マーカーランプ:	
LED	
エンジンオイル:	
推奨オイル:	
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス	
エンジンオイル量:	
オイル交換時:	
2.30 L	
オイルフィルター取り外し時:	
2.60 L	
冷却水容量:	
リザーブタンク (FULL レベルまで) :	
0.25 L	
ラジエーターと全ての経路:	
1.60 L	
バッテリー:	
バッテリー型式:	
YTZ10S/YTZ10	

二輪車を廃棄する場合は？

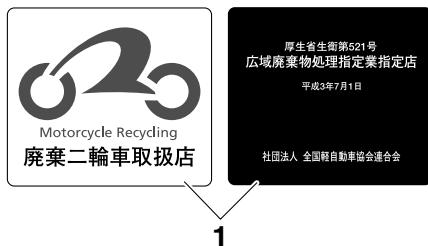
JAU36644

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費

用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただけません。

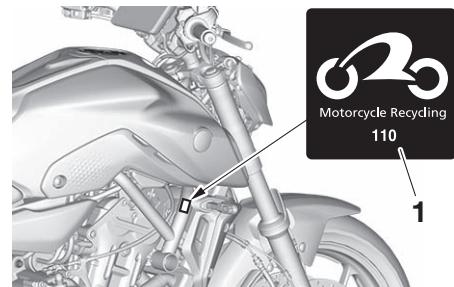
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

サービスマニュアル(別売)の紹介
 サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明しております。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
 サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号 :
QQS-CLT-000-BTK

JAU28393

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、タンデムシート下のフレームに貼り付けてあります。

JAU28457

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

MT-07

モデルラベル

製品仕様を示しています。

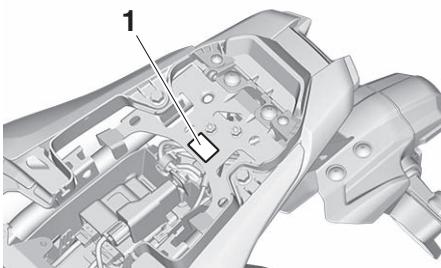


カラーリングを示しています。

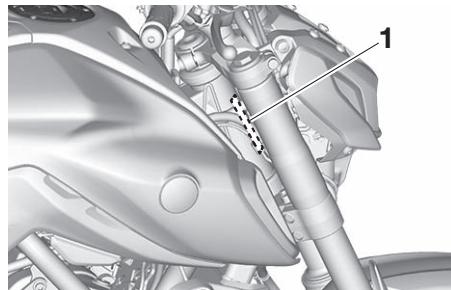


JAU50501

車台番号



1. モデルラベル



1. 車台番号

10

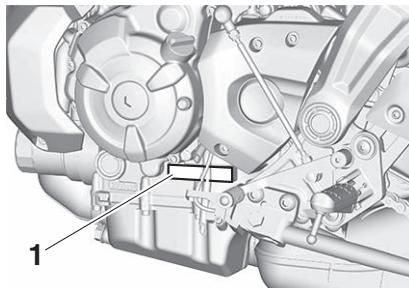
ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

ユーザー情報

原動機番号

JAU50511



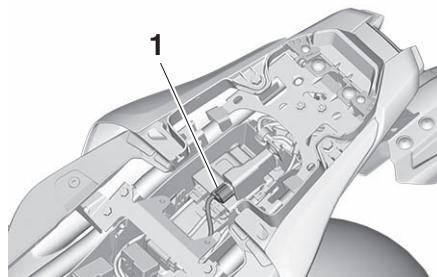
1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

故障診断コネクター

JAU73861



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/>

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の3種類の車両情報を記録しています。

- 1) 車体番号
- 2) エンジン / モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報
- 3) 故障診断コード (DTC) など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

- 1) 適切なメンテナンスや故障探求のため
- 2) 適正な保証修理判定のため
- 3) 製品の研究開発
- 4) 製品、機能、およびサービスの品質向上のため
- 5) その他の事業目的を達成するため
- 6) 法律や規則に基づいて要求された場合

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および契約者会社に情報を提供する場合があります。

ユーザー情報

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関する請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ヤマハ発動機株式会社

〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。

お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

あ	あなた自身と同乗者のために 1-1 アフターケア用品について 8-3
い	イグニッションサーキット カットオフシステム 4-23 イモビライザーシステム 4-2
う	運行において異常が認められた 箇所の点検 7-18
え	ABS 4-15 エアクリーナーエレメントの交換 7-6 エンジン警告表示 4-9 エンジンオイル 7-2 エンジン始動 6-1 エンジンのかかり具合、 異音の点検 7-3
か	環境・住民の方との調和のために 1-6
き	キーの取り扱い 4-1 キャストホイールの取り扱い 8-2 ギヤチェンジのしかた 6-2
く	クイックシフター (装備している場合) 3-1 クラッチ 7-8
け	警告灯と表示灯 4-5 原動機番号 10-3
こ	故障診断コネクター 10-3 故障表示灯 4-5
さ	サービスツール 7-2 サービスマニュアル (別売) 紹介 10-2 サイドスタンド 4-22
し	CCU (コミュニケーション コントロールユニット) 3-1 シート 4-18 車体各部の給油脂状態の点検 7-13 車台番号 10-2 車両情報 10-2 車両情報の記録にに関して 10-4 車両の特徴 3-1 書類入れ 4-19
す	スターター／エンジンストップ スイッチ 4-4
せ	洗車 8-1
た	タイヤ 7-6
ち	駐車 6-3
て	DC コネクター 4-22 低速、加速の状態の点検 7-4 点検整備の実施 7-1
と	灯火装置および方向指示灯の 点検 7-17 ドライブチェーン 7-11 ドライブチェーンの給油 7-12
な	ならし運転 6-1
に	荷掛けフック 4-21 日常点検箇所／点検内容 5-1 日常点検の実施 5-1 二輪車を廃棄する場合は? 10-1
ね	燃料 4-17
は	ハザードスイッチ 4-5 バックミラー 7-13 パッシングライトスイッチ 4-4 バッテリー 7-14 ハンドルスイッチ 4-3
ひ	ヒューズ交換 7-15
ふ	フューエルタンクキャップ 4-16 ブレーキ 6-3 ブレーキ液量の点検 7-10 ブレーキパッドの点検 7-10 ブレーキランプスイッチの点検 7-9 ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検 7-9 ブレーキレバーの握り調整 4-22

索引

へ

- ヘッドライト上下切り替え
 スイッチ 4-4
- ヘルメットホルダー 4-19

ほ

- ホーンスイッチ 4-4
- 方向指示器スイッチ 4-4
- 保管のしかた 8-3
- 歩行者と他の車のために 1-5

め

- メインスイッチ 4-2
- メインディスプレイ画面 4-6
- メニュー・システム 4-12

も

- モデルラベル 10-2

り

- リヤクッションの調整 4-20

れ

- 冷却水 7-4

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-100-BTK

PRINTED IN JAPAN
2024.01-0.2×1  (J)